

平成26年度 決算報告

平成26年度一般会計の決算規模については、歳入総額が37億7,802万7千円で、前年度と比較すると9,571万9千円(2.5%)の減、歳出総額は36億3,475万9千円で、前年度と比較すると8,001万1千円(2.2%)の減となりました。

また、歳入歳出差引額は1億4,326万8千円の黒字ですが、このうち翌年度へ繰越すべき財源が1,111万2千円あり、実質収支額は1億3,215万6千円となり、前年度より32万7千円(0.2%)の減となりました。

歳入について、町税のうち個人町民税は米価の下落等により個人所得が減少したこと、8.5%の減となり、法人町民税は主要企業の業績回復等により30.0%の増となったものの、町民税全体では5.4%の減となりました。固定資産税は、土地分0.5%増、家屋分0.8%減、償却資産分2.9%減、交付金分5.7%増、県有資産の増により全体で0.4%の増となっております。軽自動車税は、登録台数は減少したものの収納率の向上により0.8%の増、たばこ税は、

販売本数の減少により6.6%の減、入湯税は入浴客数の減少により1.9%の減となり、町税全体としては2.1%の減となっております。

地方交付税については、普通地方交付税は4.4%の減、特別交付税は14.9%の減で、全体では5.5%の減となりました。これは、各単位費用の減や辺地債等の償還終了などによるものです。

国・県支出金のうち、国庫支出金では臨時福祉給付金事業費補助金、がんばる地域交付金、農業基盤整備促進事業費補助金等の皆増や社会資本整備総合交付金の増等が要因となり72.8%増、県支出金においては、未来づくり交付金、森林環境保全整備事業費補助金などの増に対し、公共施設再生可能エネルギー等導入事業費補助金、県営発電所周辺地域等振興事業費補助金などの皆減等により8.3%減となっております。

町債においては、振興資金2,110万円が皆減、臨時財政対策債が854万7千円減、過疎対策事業債が5,700万円減となったものの、緊急防災・減災対策事業債が1億1,840万円増となり、総額で2,945万3千円(10.3%)の増となっております。

歳出については、公債費9.8%から9.4%に減少したものの、義務的経費が31.6%から31.8%へと若干増加しており、経常収支比率は79.6%となっております。

その他は下記をご覧ください。

平成26年度主要施策

(単位：千円)

『補助事業』

歯科用機器購入事業	7,981
造林事業	40,831
道路ストック総点検調査	15,965
藤琴二ツ井線道路改良事業	24,262
一の渡2号線道路改良事業	18,957
防火水槽新設事業	12,312
災害復旧(補助分)(農林水産)(繰明分)	60,474
災害復旧(補助分)(公共土木)(繰明分)	16,074

『単独事業』

役場庁舎耐震補強事業	11,155
特産振興事業(未来づくり事業関連)	59,860
造林事業(単独)	48,675
林産物特産品振興事業	51,292
素波里園地再生整備事業(未来づくり事業関連)	84,976
観光施設等整備事業	32,509
道路維持事業	51,841
藤琴二ツ井線道路改良事業	12,310
清水岱公園野球場トイレ建築事業	12,489
防災対策業	82,681
災害復旧(単独分)(公共土木)	15,993

◇歳出の性質別構成比率◇

(単位：千円)

【義務的経費】

◎人件費	574,598 (15.8%)
(うち職員給)	324,727 (8.9%)
◎扶助費	240,011 (6.6%)
◎公債費	339,357 (9.4%)

【投資的経費】

◎普通建設事業費	685,909 (18.9%)
◎災害復旧費	110,449 (3.0%)

【その他経費】

◎物件費	471,694 (13.0%)
◎維持補修費	60,246 (1.7%)
◎補助費等	516,156 (14.2%)
◎投資出資貸付金	70,812 (1.9%)
◎積立金	192,277 (5.3%)
◎繰出金	371,642 (10.2%)

歳出合計	3,633,151 (100%)
------	------------------